

令和4年度仙台管内社会教育拠点施設訪問

松島町 松島町中央公民館

「夏祭り盆踊り～みんなで踊れるようになろう～講習会」

7月30日(土)開催

松島町内においては35年ほど前まで、町内学校の児童生徒は「大漁唄い込み」を踊ることができた。しかし、この伝統も年月の経過と共に薄れていった。そこで踊りについては、学校以外の公民館の分館単位で傳承されるようになる。松島町内の12地区(分館単位)において、分館長を中心に各子ども会と連携し、継続して練習会が実施されてきた。

しかし、このコロナ禍において練習会はこの2年実施されなかった。危機感を持った松島町芸術文化協会と公民館の分館長は、公民館事業として踊りの傳承を続けることができないかと模索し、公民館と連携して今回の新規事業の立ち上げとなった。

講習会当日は、松島町芸術文化協会から12人の協力を得て、参加者大人26人、子ども18人で開催された。子どもは親と一緒に参加することが条件となっている。なお、コロナ罹患者の増加に伴い当日は児童館の30人の子どもたちがキャンセルとなった。参加募集は、全戸配布の広報誌への掲載と、分館長会議で分館長に依頼し、各子ども会への周知をお願いしている。

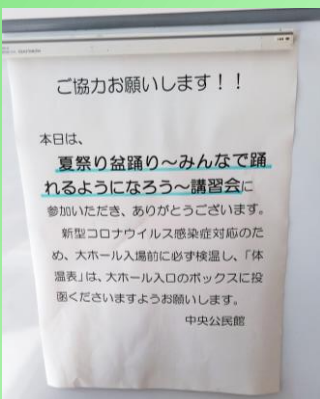
講習会の演目は、①大漁唄い込み②仙台七夕踊り③相馬盆踊りである。芸術文化協会の方に合わせて踊りをまねすることから始まり、その後一つ一つの動作を確認していく。そして参加者全員で輪になって踊り、踊る喜びや楽しさを共有していく。この講習会を通して、一連の踊りの基本を学ぶことができた。芸術文化協会の櫻井氏は「今日学んだことをそれぞれの子ども会に持ち帰り、教えることで、今年の盆踊りに生かしてほしい」と話していた。なお、今年の松島町内の12地区の盆踊りは、12地区中3地区で実施するとのことである。

参加した子どもたちは「踊るのが楽しかった」「踊りを覚えることができて良かった」と話しており、参加した保護者は「町外から移住してきて、踊りを初めて踊ったが、家で子どもと練習して覚えていきたい。」と話していた。

町の傳統を繼承するために、公民館と地域と団体が連携・協働して開催された事業である。コロナ以前のような形での傳承が困難な今、今回の講習会の形によって、芸術文化協会の方々のやりがいやモチベーションの向上、分館長や地域の保護者の思い、子どもたちの傳統文化への意欲の向上も感じられた講習会であった。



輪になって踊ります。芸術文化協会の方の踊りを見て、子どもたちもしっかり踊りました。



感染対策を取って安心・安全



芸術文化協会の方の熱心な指導です



こんなに踊れるようになりました



最初は、芸術文化協会の方の踊りをまねながら覚えです